



発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区平河町2-7-5 (砂防会館内)  
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664

編集・発行人 大場真弥

印刷所 株式会社白橋印刷所

会員(定価1部100円) その他一般(定価1部150円)  
毎月1回15日発行



# 謹賀新年

冠雪の富士 (全水連事務局)

## 目次

年頭所感	全国治水期成同盟会連合会会長 参議院議員 陣内 孝雄	2
新年のご挨拶	国土交通省河川局長 清治 真人	3
災害の昨年を振り返る	富士常葉大学環境防災学部教授 竹林 征三	4
平成17年度河川局関係予算(案)の概要(速報版)		6
地方からの声		
市民との協働による防災対策	全国治水期成同盟会連合会副会長 福島市長 瀬戸 孝則	12
平成17年度全国治水大会長崎大会のご案内	長崎県	14
全水連だより 平成17年度全水連行事予定		14

## 年頭所感

## 異常気象に備える



全国治水期成同盟会連合会会長  
参議院議員 陣内孝雄

明けましておめでとうございます。皆様にはお元気でよい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

お正月のテレビにベネチアのサンマルコ広場が海水に浸っている画面が映し出されました。オランダが海面上昇により水没する。ニューヨークに海水が押し寄せ水没するというSFドラマもありました。これらは単なる仮想ではなく、近年の気象に異常が生じていることを問いかけているのではないのでしょうか。

それにしても2004年は、集中豪雨、台風そして地震と数多くの自然災害に見舞われました。特に台風の上陸は6月から10月まで史上最多の10個で、これまでの記録6個をはるかに上回る約2倍となり、全国各地に甚大な被害をもたらしました。

地震は別問題としても、今年のこの現象を単なる異常気象と片づけることができないような気がします。統計的にみまると、近年異常気象といわれる風水害が顕著になってきております。異常気象はエルニーニョ現象や地球温暖化等の影響により発生しますが、気候変動は自然を原因とするもののほかに、人為的な原因によって起きているとも言われております。今年の集中豪雨や台風が多く発生した原因は、太平洋高気圧が異常に強く北へ張り出したからですが、近年、太平洋東部赤道付近の海水の温度が上昇するエルニーニョ現象がおきていること、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)等の増加に伴う地球温暖化傾向が顕著になっていることがその原因に挙げられています。その結果、①将来も異常気象は発生する、②気温は長期的に上昇する、③激しい豪雨が頻発しまた少雨が増加する、ということが言われております。確かに日本の気候は、短期的、局所的な集中豪雨や50mを超える暴風など振幅が極端に大きくなってきており、人為的な原因が多ければ、この傾向は今後も続く、いやもっと多発すると言わなければなりません。来月には温暖化対策を盛り込んだ京都議定書が発効しますが、最初の一步に過ぎません。

これら異常気象が今後も続発することを考えると、治水事業に携わる我々関係者としては、異常気象に対応すべく意を新たに取り組む必要があります。

幸い、三位一体改革の議論の際に、河川流域ごとに国と地方からなる「総合流域防災協議会(仮称)」が設置されることとなりました。国と地方が連携して防災に当たる体制ができるものと歓迎しております。

ただ現下の厳しい財政事情を考慮すると、河川整備に多くの財政を投資することは困難であり、ソフト的な対策も一体として取り入れていかなければなりません。水防体制の強化、ハザードマップの作成、洪水時の情報連絡体制の整備等が欠かせない事項です。昨年、一部の自治体で避難勧告が遅れて、災害弱者といわれる高齢者に大きな被害が出ましたが、避難勧告・避難指示の出し方が重要になってまいります。具体的にどの程度の雨量や水位となったら勧告・指示を出すかなどの客観的な基準づくりを急がなければなりません。

災害が発生してからでは手遅れです。国民が安心して生活できる災害を未然に防止する災害予防が国の責務であらうと考えます。

私ども全水連といたしましても、会員皆様のご意見を頂戴しながら、国と地方との連携を一層深めるよう努めてまいります。関係各位の更なるご指導・ご支援を切にお願い申し上げますとともに、新年が明るい良い年になりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

## 新年のご挨拶

# 地域と国が一体となって「安全・安心」社会を



国土交通省河川局長

清 治 真 人

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。皆様には日頃より、河川行政に対して深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、梅雨前線による集中豪雨や観測史上最多の10個もの台風の上陸により、全国各地で水害や土砂災害が発生しました。さらには、10月23日の新潟県中越地震により、家屋や公共施設などに甚大な被害が発生し、住み馴れた故郷から避難され、今なお仮設住宅などの不便な生活を余儀なくされている住民の皆様を思うと、新年の晴れやかな気分には浸りきれないといったところです。

昨年の災害の状況を見て、まさにこの日本においては、明日は自分の住むまちが水害や地震などに襲われる可能性があるということを、全国の住民と行政の皆様が肌で感じられたのではないのでしょうか。

国土交通省といたしましても、昨年の水害を教訓として活かすべく、社会資本整備審議会の下に設置された「豪雨災害対策総合政策委員会」の緊急提言（12月2日）に基づき、新たな予算制度や法制度等の整備に反映させるとともに、当面の行動計画として盛り込み対処してまいります。

この提言は、集中豪雨の増加傾向、高齢化や地域コミュニティの衰退、財政制約などを踏まえ、新たな論点も含めて、「ソフト対策とハード整備が一体となった減災体制の確立」「災害安全度の早期向上のための多様な計画・整備、既存施設の有効活用、管理の高度化」を骨子として、水災防止体制を総合的に見直し強化し、この春には計画論や管理の強化策についてもとりまとめていく予定です。

一方、昨年、この国の改革の方向についての大きな議論がなされたのは、三位一体改革でした。この中で、地方6団体からの提言では、河川・砂防事業の補助金の大部分が廃止・税源移譲の対象とされました。これに対し、国土交通省では、「三位一体改革は地方の自主性・裁量性を高めるために推進されなければならない」が、「災害から国民の生命と財産を守る治水対策は、国の基本的責務」であること、「災害の発生に応じて、機動的・集中的な対応が可能な国庫補助負担金制度の維持が必要」であることについて、ねばり強く主張した結果、昨年11月「三位一体改革についての全体像（政府・与党合意）」において、河川事業・砂防事業の補助金は廃止対象からは除外されました。これも、ひとえに治水対策を望む各地域の声を代弁される皆様のご理解とご支援の賜と、厚く御礼申し上げます。

この方針の決定後、平成17年度予算案が12月24日に決定されましたが、引き続き厳しい財政事情の中、国全体の公共投資関係費については、昨年に続き対前年度0.96倍と減額され、河川局関係予算についても対前年度0.95倍とされたところであります。また、災害復旧・災害予防のための補正予算案も併せ決定されました。

河川局といたしましては、再度の災害発生の防止など効率的・効果的な安全な地域づくりのための予算の重点化やソフト・ハード一体となって減災を図る豪雨緊急対策等を実施してまいります。また特に、ダム事業については、本体工事中のダムに重点投資するなど、必要な事業については着実に実施して、その効果の早期発現に努めます。

今後も、厳しい財政状況や少子・高齢化等、社会経済情勢の変化を受けて、我が国全体として徹底した構造改革の推進が求められると思いますが、「安全・安心」を確保していくのは、地域住民の願いであり、地域の住民・行政そして国が一体となって災害に強い社会を実現していかなければならないと考えています。

本年も、全水連の皆様方の積極的な活動を通じて河川行政に対し一層のご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の益々のご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

# 『災害』の昨年を振り返る

## — ダムの効果は歴然、備えあれば憂いなし —



富士常葉大学環境防災学部 教授  
工学博士 竹林 征三  
附属 風土工学研究所 所長

### 1. 『災』の年

昨年1年の世相を表わす「今年の漢字」が昨年12月13日京都市の清水寺で発表された。去年は10個にのぼる記録的な台風が上陸する他、新潟県中越地震などの天災が起きたことや、イラク戦争などの戦争による人的災害なども反映して『災』の字が選ばれた。全国から「今年の漢字」ということで公募した結果、過去最多の9万1630名の応募があり、「災」の字が実に2万936名もあったという。まさに次から次へと災害がやってきた。

まず、日本に上陸する台風の数は年平均2.6個で、これまでの最大の上陸数は平成2年と6年の6個であったが、昨年は、それらをはるかに上まわり例年の4倍の10個となった。昨年の主な災害を振り返ると、まず6月に静岡・徳島県を襲った台風6号。7月に入ると、13～14日の新潟・福島豪雨。14～18日の足羽川が破堤した福井豪雨。7月31日に徳島・高知県等を襲った台風10号。8月になって、5日に三重県等を襲った台風11号。17日に愛媛・香川県等を襲った台風15号。8月30～9月1日にかけては、日本列島を縦断し熊本・宮崎・鹿児島・愛媛・香川・広島・岡山・兵庫・北海道等多くの県を襲った台風16号。9月1日には浅間山の噴火。9月7日には各地で多くの高潮被害を出した台風18号。29日には三重・兵庫・愛媛県等を襲った台風21号。10月になって静岡・神奈川県・東京都等を襲った台風22号。20日には大分・香川・徳島・京都・兵庫県等を襲った台風23号。そして23日に新潟中越地震である。

河川についてみれば、10月21日現在109の1級水

系のうち、63河川で危険水位を突破したと報告されている。ちなみに平成15年は、危険水位を突破したのは11河川である。中越地震の被害が余りにも大きかったので、台風23号の被害の大きさや、新潟・福島そして福井集中豪雨等々の全国各地の災害も印象が薄れた感じがする。しかし、いずれの災害も例年なら記憶に鮮明に刻まれる大災害である。日本人の自然観には天変地異等に遭遇すると、まるで「たたり」にあったとか、悪霊に取り付かれたようだという。古来の政治（まつりごと）はこのような天変地異に遭遇すると加持祈祷等の悪霊除けを行った。昨年はまさに悪霊に取り付かれた「たたり」にあったようだ。今年は災害のない年になって欲しいものである。

### 2. ダムの効果は歴然、備えあれば憂いなし

昨年の河川災害を振り返ると、全国の多くのダムが計画規模あるいは、それを超す規模の洪水を調節し被害軽減に大きな役割を果たした。それらのうちいくつかの事例を紹介し、感想を述べてみたい。

新潟・福島豪雨では、水害にあった信濃川の刈谷田川と五十嵐川の上流には三つのダムが洪水を調節し大きな貢献した。刈谷田川においては刈谷田川ダムで193m<sup>3</sup>/sの洪水のピーク流量を低減し、約325万m<sup>3</sup>の洪水を貯留して、下流の氾濫量の軽減に寄与した。一方五十嵐川においては、笠堀ダムと大谷ダムで1,146m<sup>3</sup>/sの洪水のピーク流量を低減し、約1,713万m<sup>3</sup>の洪水を貯留して下流の氾濫量の軽減に大きく寄与した。すなわちダムによる洪水のピーク

流量を低減するということは下流の堤防の破堤被害を軽減したということであり、またダムของ洪水貯留量分だけ氾濫量が少なくてすんだということである。

福井豪雨においては、足羽川の破堤により福井市内は甚大な浸水被害を蒙った。一方、同じ豪雨域であった鯖江市を流れる浅水川流域で浸水被害はなかった。平成10年7月の梅雨前線豪雨では156戸の浸水被害がでたが、その後災害復旧等で引堤等の改修を集中的に実施した。その結果、今回の福井豪雨では時間雨量と流域平均雨量とも平成10年7月豪雨の時より上回ったが浸水被害はゼロであった。災害に備えた地域は被害がでなかった。「備えあれば憂いなし」である。一方、足羽川では治水を主目的とする足羽川ダム計画が20～30年ほど前からあったが、昨今のダムは無駄との世の風潮で、ダムの規模は過大だとの議論の中、本川から支川にダムサイトを移す規模縮小案に計画が変更され、流域委員会でダムの計画を認めるかどうかという議論の最中であつたという。治水というものは国家百年の計で肅々と実施すべきものなのに、大自然の猛威を忘れたダム無用論によって計画の実現が遅れてしまったものであり、今回の足羽川の災害は神様がお怒りになったのではないかと思えてならない。足羽川ダムが当初の計画どおりできていれば今回の災害はなかったのではないかと悔やまれてならない。

京都府を流れる由良川中下流域の綾部市、福知山市、大江町、舞鶴市等で台風23号により洪水被害を蒙った。由良川大橋上流でバスが孤立し、37人の乗客がバスに取り残されてマスコミを賑わせた。刻々

と水位は上がっていく。バスの屋根で救いを待つ人々にとっては気が気でない。上流の京都府管理の大野ダムではダムの貯水量と今後の雨量予測を冷静に分析して、一般的な操作規則によらず、緊急操作で限界近くまで貯水しバス乗客救助のため懸命の対処をした。ダムの水位が最高水位を超過することが予想される場合は、ダムの流入量の一部をダム貯水池に貯め込んでいく操作から流入量をそのまま下流へ放流する操作に移行していくのが一般的である。今回は、人命を最優先に考えて、下流河川から少しでも増水するのを抑制するため、この操作をダムから越流が始まる直前まで遅らせた。なお、この操作は関係機関への綿密な連携のもとで実施されたことは言うまでもない。

昨年の三位一体改革の議論で河川と砂防の補助事業をそれぞれ7割と9割停止・移譲するという地方自治体の案は地方切捨てであつたかを知らしめてくれた。どこで何時起きても不思議でない災害の年でもあつた。

昨年は全国の多くのダムが洪水調節で大きな効果をあげ、その役割を果たした。脱ダムやダム無用論を唱える人々にダムの効果がいかに大きいかを知らしめてくれた。

#### <事務局追記>

本号にはじめて富士常葉大学教授竹林征三先生に、ご多忙の中をご寄稿いただきました。先生には、本号から3～4回にわたりご執筆いただくことといたしております。ご期待下さい。

# 平成17年度河川局関係予算（案）の概要（速報版）

平成17年度予算は、去る12月20日に財務省原案が内示され、12月24日に政府案が決定されました。

国費ペースで約5パーセント減と厳しい内容となっております。詳細は2月号に譲りますが、速報版をお届けいたします。

## 1. 河川局所管予算内示総括表（国費）

（単位：百万円）

事 項	前年度予算額 (A)	内 示 額 (B)	対前年度倍率 (B/A)
河 川	485,741	454,169	0.94
河 川 総 合	269,814	267,949	0.99
砂 防	157,629	148,825	0.94
急傾斜地崩壊対策等	25,462	22,621	0.89
総合流域防災（仮称）	73,294	72,928	1.00
海 岸	27,495	25,818	0.94
機 械	1,082	1,033	0.95
独立行政法人土木研究所	1,453	1,448	1.00
計	1,041,970	994,791	0.95
災 害 復 旧 関 係	51,263	49,847	0.97
災 害 復 旧	42,533	38,692	0.91
災 害 関 連	8,730	11,155	1.28
合 計	1,093,233	1,044,638	0.96

（注） 1. 国費には、道路関係社会資本分として内示額26,600百万円（前年度28,000百万円）を、住宅宅地基盤特定治水施設等整備事業として内示額7,367百万円（前年度8,186百万円）を、下水道関連特定治水施設整備事業として内示額16,393百万円（前年度17,000百万円）を含む。

2. 本表のほかに改革推進公共投資事業償還金内示額46,406百万円がある。

## 2. 新規制度等

### ① 治山治水

#### ○総合流域防災事業（仮称）の創設

水害対策と土砂災害対策、ハード対策とソフト対策を一体的に実施し、地方の自主性・裁量性をより高めつつ、豪雨災害等に対し流域一体となった総合的な防災対策を推進する。

#### ○堰堤改良事業の拡充（ダム機能向上事業）

過去に建設されたダムは、現在建設されているダムと仕様が劣るダムが多い。

管理ダムの治水機能や河川環境を総合的に改善を図るため、直轄堰堤改良費及び堰堤改良費補助の拡

充を図る。

#### ○特定事業先行調整費制度の創設

一般にダム及び調整池の本体工事は、経済的な計画に基づき事業を実施する場合において、一時的に多額の事業費を要する。この事業の性格上生ずる「事業費の山」に対して、独立行政法人水資源機構（以下、「機構」という。）の保有する自己資金を活用することにより、事業工期を遵守しつつ、毎年度の財政支出の平準化を図る。

#### ○静岡県庵原郡由比地区における直轄地すべり対策事業の新規着手

日本の大動脈（東名高速道路・国道1号・JR東

海道本線及び情報通信網等)が集中している静岡県庵原郡由比地区において、豪雨や東海地震等により大規模な地すべりが発生するおそれがあることに鑑み、当該地区の地すべり対策を促進するため、直轄地すべり対策事業に新規着手する。

#### ○直轄総合水系環境整備事業の創設

河川の環境整備については、流域全体の視点からの整備が重要であり、特に上流ダムを有する水系についてはダムとの連携が必要である。したがって、上流ダムにおける環境整備と河川における環境整備を総合化して整備することにより、①ダム貯水池での水質改善と河川での水質浄化により効果的な河川の水質浄化を図る。②ダムから河口まで連続して水辺に近づきやすくすることができる。③ダムから河口まで連続した魚道整備により、魚類の遡上・降下環境の改善を図る。④上流ダムから下流への環境向上のための放流と河川における自然再生の整備を連携することにより生物の生息・生育環境の改善を図る。

#### ○河川環境事業費補助の統合補助金化

河川の環境整備については、流域全体の視点からの整備が重要である。

統合河川環境整備事業については、指定区間内の一級河川及び二級河川において、地域がより創意・工夫を活かして、流域全体の視点から河川環境整備

事業を推進することを目的とする。

#### ② 海岸

○「津波危機管理対策緊急事業」の創設(海岸省庁共同)

津波に関する危機管理対策として、既存の海岸保全施設の緊急的な防災機能の確保及び避難対策を促進することにより、津波発生時における人命の優先的な防護を推進することを目的とする。

#### ○沖ノ鳥島の管理の充実

本施設は、わが国の国土面積を上回る、約40万平方キロメートルの排他的経済水域を有する極めて重要な島である沖ノ鳥島において、海象観測用レーダーを導入することにより、管理の充実を図ることを目的とする。

### 3. 新規採択箇所名等

建設事業移行

(補助) 河川総合開発事業

…… 湊川：五名ダム再開発事業(香川県)

### 4. 平成17年度予算ダム別内訳表

(単位：百万円)

道府県名	直轄・補助等別	分類	区分	ダム名	前年度		内示額		備考
					共同費	国費	共同費	国費	
北海道	直轄	特ダム	建設	沙流川総合開発	1,270	1,047	1,176	969	二風谷、平取
	〃	〃	〃	石狩川・忠別	8,315	6,509	8,455	6,622	
	〃	〃	〃	留萌川・留萌	4,800	4,020	8,100	6,788	
	〃	〃	〃	石狩川・幾春別川総合開発	2,408	1,967	1,599	1,306	新桂沢、三笠ばんべつ
	〃	〃	〃	天塩川・サンル	1,952	1,640	1,399	1,176	
	〃	河川総合	〃	石狩川・夕張シューパロ	3,092	2,629	3,099	2,635	
	補助	多目的	〃	徳富川・徳富	3,600	1,058	4,000	1,176	
	〃	〃	〃	当別川・当別	1,700	980	1,689	972	
	〃	〃	〃	庶路川・庶路	1,700	888			平成16年度完成
	〃	〃	〃	厚真川・厚幌	1,273	695	2,000	1,091	
青森	直轄	特ダム	建設	岩木川・津軽	3,860	3,090	3,680	2,938	
	補助	多目的	〃	堤川・駒込	310	155	405	202	
	〃	治水	実調	大和沢川・大和沢	34	17	42	21	
	〃	〃	〃	中村川・中村	12	6	0	0	※

道府県名	直轄・補助等別	分類	区分	ダム名	前年度		内示額		備考
					共同費	国費	共同費	国費	
岩 手	直 轄	特ダム	建設	北上川・胆沢	11,000	8,530	12,700	9,812	
	補 助	多目的	〃	築川・築川	2,325	1,131	2,411	1,172	
	〃	〃	〃	盛川・鷹生	1,718	838	1,500	731	
	〃	治 水	〃	気仙川・津付	30	15	88	44	平成16年度は多目的
宮 城	直 轄	特ダム	実調	鳴瀬川・鳴瀬川総合開発	160	112	160	112	田川第一、田川第二
	補 助	多目的	建設	迫川・迫川総合開発	2,575	384	480	110	荒砥沢、小田
	〃	〃	〃	筒砂子川・筒砂子	4	2	4	2	
	〃	〃	〃	迫川・長沼	3,150	1,729	3,300	1,811	
	〃	治 水	実調	川内沢川・川内沢	10	5	10	5	
秋 田	直 轄	特ダム	建設	米代川・森吉山	12,500	10,465	14,200	11,882	
	〃	〃	〃	雄物川・成瀬	1,500	1,235	1,614	1,333	
	〃	〃	実調	子吉川・鳥海	200	170	300	256	
	補 助	多目的	建設	小坂川・砂子沢	700	375	1,570	842	
	〃	〃	実調	斉内川・真木	30	15	30	15	
山 形	直 轄	特ダム	建設	最上川・長井	10,500	8,292	11,000	8,686	
	〃	〃	〃	荒川・横川	5,700	4,445	6,100	4,757	
	補 助	多目的	〃	鬼面川・綱木川	3,000	1,195	2,400	956	
	〃	治 水	実調	最上小国川・最上小国川	39	20	80	40	
福 島	直 轄	特ダム	建設	阿武隈川・摺上川	3,200	1,586	3,100	1,644	
	補 助	多目的	〃	今出川・今出川総合開発	70	34	80	40	今出、千五沢
	〃	〃	〃	木戸川・木戸	5,000	2,225	4,320	1,922	
茨 城	直 轄	流況調整	建設	利根川那珂川・霞ヶ浦導水	5,571	3,900	4,400	3,080	
	補 助	多目的	〃	大北川・小山	4,095	1,790	437	191	
栃 木	直 轄	特ダム	建設	利根川・湯西川	6,421	1,952	7,000	3,818	
	〃	河川総合	〃	鬼怒川上流ダム群連携	4,380	3,083	2,200	1,562	
	水 機 構	水 機 構	〃	利根川・思川開発	6,190	3,959	6,810	4,356	
群 馬	直 轄	特ダム	建設	利根川・八ッ場	19,650	7,461	28,000	11,123	
	〃	〃	実調	利根川・吾妻川上流総合開発	140	98	140	98	
	〃	河川総合	〃	利根川上流ダム群再編	360	252	360	252	
	水 機 構	水 機 構	建設	利根川・戸倉	820	279	270	92	
	補 助	多目的	〃	烏川・倉測	80	39	30	15	
埼 玉	〃	〃	〃	碓氷川・増田川	96	44	95	44	
	直 轄	河川総合	実調	荒川流水総合改善	36	24	20	13	
	〃	〃	〃	荒川上流ダム再開発	22	15	20	14	大洞、二瀬(再)
	〃	〃	〃	利根川上流ダム群再編	360	252	360	252	
	水 機 構	水 機 構	建設	荒川・滝沢	16,000	6,122	11,000	4,208	
千 葉	〃	〃	〃	荒川・浦山	2,943	986	1,000	335	償還のみ
	〃	〃	〃	利根川・武蔵水路改築	340	237	240	167	
	補 助	多目的	建設	夷隅川・大多喜	60	23	59	22	
新 潟	補 助	多目的	建設	破間川・広神	3,200	1,755	3,100	1,700	
	〃	〃	〃	胎内川・奥胎内	900	447	430	214	
	〃	治 水	〃	儀明川・儀明川	113	57	20	10	



道府県名	直轄・補助等別	分類	区分	ダム名	前年度		内示額		備考
					共同費	国費	共同費	国費	
新潟	補助	治水	建設	常浪川・常浪川	429	236	275	151	
	〃	〃	〃	鶴川・鶴川	450	225	430	215	
山梨	補助	多目的	建設	葛野川・深城	2,270	1,009			平成16年度完成予定
	〃	〃	〃	琴川・琴川	3,200	1,406	3,800	1,670	
長野	直轄	特ダム	建設	天竜川・三峰川総合開発	7,100	5,237	2,039	1,513	戸草、美和(再)
	補助	多目的	〃	浅川・浅川	0	0	0	0	※
	〃	〃	〃	砥川・下諏訪	0	0	0	0	※
	〃	〃	〃	夜間瀬川・角間	0	0	0	0	※
	〃	治水	〃	上川・蓼科	0	0	0	0	※
	〃	〃	実調	清川・清川	0	0	0	0	※
富山	直轄	特ダム	建設	庄川・利賀	2,015	1,569	2,097	1,618	
石川	補助	多目的	建設	大聖寺川・九谷	1,650	659	468	187	
	〃	〃	〃	町野川・北河内	1,065	527	1,200	594	
	〃	治水	〃	犀川・辰巳	815	406	465	233	平成16年度は多目的
岐阜	直轄	特ダム	建設	木曾川・新丸山	3,090	2,153	3,000	2,089	
	〃	〃	実調	矢作川・上矢作	80	58	80	56	
	〃	河川総合	建設	木曾川流水総合改善	20	14			平成16年度中止
	〃	〃	〃	木曾川・横山ダム再開発	5,700	4,100	5,395	3,876	平成16年度は特ダム
	水機構	水機構	〃	木曾川・徳山	9,339	3,475	26,023	13,279	共同費には、公共費(交付金)を水資源機構の自己資金で先行調整する6,993百万円を含む。
	補助	多目的	〃	荒城川・丹生川	700	349	680	339	
	〃	〃	〃	大八賀川・大島	80	40	20	10	
	〃	治水	〃	長良川・内ヶ谷	450	248	300	165	
静岡	直轄	河川総合	実調	天竜川ダム再編	120	84	400	280	
	補助	多目的	建設	太田川・太田川	2,900	1,122	3,700	1,432	
愛知	直轄	特ダム	建設	豊川・設楽	1,740	1,218	1,800	1,260	
	補助	多目的	〃	鳥川・男川	194	97	50	25	
三重	水機構	水機構	建設	淀川・川上	1,310	647	1,310	645	
	補助	治水	〃	加茂川・鳥羽河内	97	49	120	60	
福井	直轄	特ダム	建設	九頭竜川・足羽川	630	498	700	559	
	補助	多目的	〃	河内川・河内川	356	176	434	214	
	〃	〃	〃	浄土寺川・浄土寺川	2,440	1,181	2,100	1,016	
	〃	〃	〃	吉野瀬川他・日野川総合開発	4,785	1,376	5,294	1,790	榎谷、二ツ屋導水、吉野瀬川
滋賀	直轄	特ダム	建設	淀川・大戸川	1,607	996	1,527	1,033	
	水機構	水機構	〃	淀川・丹生	1,000	387	660	255	
	補助	治水	〃	安曇川・北川	270	149	269	148	
	〃	〃	〃	芹川・芹谷	89	49	111	61	栗栖ダムから名称変更
京都	直轄	特ダム	建設	淀川・天ヶ瀬ダム再開発	170	112	140	87	
	水機構	水機構	〃	淀川・日吉	3,358	1,429	2,393	1,018	償還のみ
	補助	多目的	〃	畑川・畑川	350	143	100	41	
大阪	直轄	特ダム	建設	淀川・猪名川総合開発	1,132	581	553	387	余野川
	補助	多目的	〃	安威川・安威川	7,537	2,894	6,257	2,402	
	〃	治水	〃	大津川・横尾川	313	157	546	273	

道府県名	直轄・補助等別	分類	区分	ダム名	前年度		内示額		備考
					共同費	国費	共同費	国費	
兵 庫	直 轄	特ダム	建設	淀川・猪名川総合開発	1,132	581	553	387	余野川
	補 助	多目的	〃	新湊川・石井	1,400	699	450	225	
	〃	〃	〃	千種川・金出地	10	5	21	11	
	〃	〃	〃	武庫川・武庫川	10	5	0	0	
奈 良	直 轄	特ダム	建設	紀の川・大滝	5,250	3,448	7,200	4,834	
	補 助	治水	〃	岩井川・岩井川	3,200	1,600	3,500	1,750	
和 歌 山	直 轄	特ダム	建設	紀の川・紀の川大堰	1,800	920	3,715	1,864	
	補 助	多目的	〃	切目川・切目川	243	120	400	198	
鳥 取	直 轄	特ダム	建設	千代川・殿	4,650	3,796	5,210	4,269	
	補 助	治水	〃	朝鍋川・朝鍋	811	406			平成16年度完成予定
鳥 根	直 轄	特ダム	建設	神戸川・志津見	6,300	5,486	6,500	5,664	
	〃	〃	〃	斐伊川・尾原	5,170	4,320	9,100	7,582	
	補 助	多目的	〃	浜田川・浜田川総合開発	405	202	595	297	第二浜田、浜田(再)
	〃	治水	〃	都治川・波積	130	65	187	94	
	〃	〃	〃	益田川・益田川	2,200	1,100	2,370	1,185	
〃	〃	実調	三隅川・矢原川	30	15	30	15		
岡 山	直 轄	特ダム	建設	吉井川・苫田	3,320	1,735			平成16年度完成予定
	補 助	多目的	〃	三室川・三室川	4,300	1,292	300	90	
広 島	直 轄	特ダム	建設	江の川・灰塚	8,700	6,001	5,000	3,455	
	補 助	多目的	〃	沼田川・福富	2,500	1,094	2,730	1,194	
	〃	治水	〃	加茂川・四川	100	50	1,300	650	
	〃	〃	〃	八幡川・梶毛	1,480	740	370	185	
	〃	〃	〃	賀茂川・仁賀	484	242	474	237	
山 口	補 助	多目的	建設	錦川・平瀬	1,348	671	1,992	992	
	〃	〃	〃	深川川・大河内川	222	95	224	96	
	〃	〃	〃	那賀川総合整備	130	101	100	78	
徳 島	直 轄	河川総合	実調	那賀川総合整備	130	101	100	78	
香 川	補 助	多目的	建設	香東川・椋川	596	250	799	335	
	〃	〃	〃	別当川・内海ダム再開発	525	219	697	332	
	〃	〃	〃	湊川・五名ダム再開発	120	60	120	60	
	〃	治水	〃	綾川・綾川ダム群連携	80	40	122	61	長柄(再)、田万
愛 媛	直 轄	河川総合	建設	肱川・山鳥坂	600	483	719	574	平成16年度は特ダム
高 知	直 轄	特ダム	建設	渡川・中筋川総合開発	780	660	850	719	中筋川、横瀬川
	補 助	多目的	〃	和食川・和食	150	75	172	78	
福 岡	直 轄	河川総合	実調	筑後川水系ダム群連携	280	209	280	209	
	水 機 構	水 機 構	建設	筑後川・小石原川	800	584	800	583	
	補 助	多目的	〃	那珂川・五ヶ山	3,096	865	6,620	1,850	
	〃	〃	〃	祓川・伊良原	319	117	813	298	
	〃	〃	実調	大根川・清瀧	45	23	35	18	
〃	治水	建設	巨瀬川・藤波	2,800	1,400	3,000	1,500		
佐 賀	直 轄	特ダム	建設	嘉瀬川・嘉瀬川	8,100	6,251	11,700	8,982	
	〃	〃	実調	筑後川・城原川	75	62	75	62	
	〃	流況調整	建設	筑後川・佐賀導水	5,000	3,762	2,200	1,653	

道府県名	直轄・補助等別	分類	区分	ダム名	前年度		内示額		備考
					共同費	国費	共同費	国費	
佐賀	補助	多目的	建設	井手口川・井手口川	350	158	350	158	
	〃	〃	〃	鹿島川・中木庭	5,020	2,292	5,220	2,383	
	〃	〃	実調	有田川・有田川総合開発	20	10	0	0	有田(再)、猿川※
長崎	直轄	特ダム	建設	本明川・本明川	590	504	570	487	
	補助	多目的	〃	川棚川・石木	1,500	485	1,097	354	
	〃	〃	〃	中島川他・長崎水害緊急	1,295	646	1,270	634	本河内高部・本河内低部、西山、浦上、中尾、雪浦、雪浦第二
	〃	〃	〃	伊木力川・伊木力	950	371	1,600	626	
	〃	〃	〃	志佐川・笛吹	4,500	1,100	1,900	465	
	〃	〃	実調	村松川・村松	10	5	0	0	※
熊本	直轄	特ダム	建設	球磨川・川辺川	5,600	4,193	3,630	2,814	
	〃	〃	実調	緑川・七滝	20	16	20	16	
	〃	河川総合	建設	白川・立野	750	604	750	604	
	補助	多目的	〃	路木川・路木	48	20	55	23	
	〃	治水	〃	川辺川・五木	100	75	101	76	
大分	建設	特ダム	建設	大分川・大分川	3,600	2,124	2,758	1,607	
	水機構	水機構	〃	筑後川・大山	3,600	1,605	3,600	1,603	
	補助	治水	〃	稲葉川他・竹田水害緊急	3,237	1,780	4,781	2,630	稲葉、玉来
宮崎	補助	多目的	建設	一ツ瀬川・吹山	97	46	30	14	
鹿児島	補助	治水	建設	新川・西之谷	1,074	537	700	350	
沖縄	直轄	特ダム	建設	羽地大川・羽地	1,146	672			平成16年度完成予定
	〃	〃	〃	沖縄東部河川総合開発	2,795	1,816	2,270	1,560	億首、漢那
	〃	〃	〃	沖縄北西部河川総合開発	7,577	2,233	10,118	2,985	大保、比地、奥間
	補助	多目的	〃	儀間川他・儀間川総合開発	220	198	320	288	儀間、タイ原

(注)・備考欄の※の事業については、準備段階にある事業等のうち、事業見直し検討のため、当面は事業促進が見込まれず、予算規模も小さいものについて、当年度の補助事業として予算計上を見送るものであり、見直しの結果、事業促進が方向づけられた場合には、予算計上を再開するものである。

・予算額は、河川等関連公共施設整備促進事業及び下水道関連特定治水施設整備事業を含んだ額である。



## 地方からの声

## 市民との協働による防災対策



全国治水期成同盟会連合会副会長

福島市長 瀬戸孝則

輝かしき2005年がスタートいたしました。

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、度重なる台風の襲来や新潟県中越地震など、災害の多い年でありました。被災地の皆さんには心よりお見舞い申し上げ、一日も早い地域の復興をお祈り申し上げます。

さて、福島市は、東京より北に270km、福島県中通り地方の北部に位置する人口29万余の県都であります。東北新幹線及びJR東北本線・山形新幹線の分岐点として、また主要道路は東北縦貫自動車道をはじめ、国道が東西南北に延びる交通の要衝にあり、東北と首都圏を結ぶ起点都市として、福島県の政治・経済・文化の中心地となっています。

市の中心には標高273mの信夫山が位置し、これを取り巻くように市街地が広がっています。中央部の土地は平たんで田畑地帯が連なり、北部及び北西部は果樹地帯として、りんご、もも、なしの特産地となっているほか、那須火山帯に属している奥羽山脈があるため、温泉にも恵まれています。

また、吾妻山系及び阿武隈山系から流れる水は、市を南北に縦貫する阿武隈川に流入し、その阿武隈川は、宮城県岩沼市及び亘理町において太平洋へと注ぐ幹川流路延長239kmを有する日本で6番目、東北で2番目の大河であります。

福島市の発展は、この母なる川・阿武隈川に負うところが極めて大きく、昔から流域住民の生活とともにあり、親しまれてきました。その反面、大雨による洪水などの被害も数多く、阿武隈川の歴史は治水の歴史でもありました。昭和61年の8.5水害では

被害総額25億円という未曾有の被害に見舞われ、流域住民も水害に対する危機管理に敏感になってきました。自主防災組織がおおよそ町会単位で結成されていますが、その会合の中でも行政に対し、洪水情報提供の要望があがるようになりました。

本市では、平成7年度に「福島市洪水ハザードマップ作成委員会」を設立し、当時の建設省、福島県の助言を頂きながら、内容・配付等について検討を重ねました。その結果、平成8年6月に「福島市洪水避難地図」として完成したところです。

また、このマップは、阿武隈川とこれに注ぐ支川が増水し、氾濫した場合の浸水予測に基づき作成したものであり、市内全域を4分割とし、1万分の1の縮尺、裏面には2万5千分の1の縮尺の全地域図が載せてあります。掲載内容は、必要最小限の情報とし、避難型、災害情報型及び災害学習型の3つの標準型の特徴を併せ持った併用タイプといたしました。「福島市洪水避難地図」は市内の小中学校、支所、公民館等の公共機関及び浸水予想区域内に含まれる町内会の全世帯に配付しました。そうして家庭内で目の届く所に貼って頂き、日頃から避難場所の確認、家族の連絡先のチェックなどに利用していただいております。

また、最近の水害では、平成10年8月、平成14年7月の台風6・7号とがありました。平成14年の災害時では、私がちょうど市長に就任するとすぐの水害でございました。「平成の大改修」でほとんどのところが大丈夫だろうというように思っていた矢先の水害でございました。床上浸水47戸、床下浸水124

戸の被害が出た水害でございましたが、今だに、頭に残っています。

この状況を反省しながら、私はやはり水害というのは絶対に来ないということはありませんということ、市民の皆さんとともに理解し合わないければならないなと考えた次第でございます。福島市といいたしましても組織機構改革の中で、15年度から防災室を立ち上げ、情報収集や指揮命令系統の一本化を図りました。また、災害時の災害対策本部事務局のあり方についても再検証し、誰が、どのような行動をとるのかなど具体的な役割分担等を明確化するなど、初動マニュアル体制を確立し、迅速な災害対応ができるような処置を講じました。

そのような中にありまして、昨年、福島市を会場とし、国土交通省東北地方整備局（福島河川国道事務所）、福島県、阿武隈川上流改修促進期成同盟会の主催による「ロールプレイング方式」による災害対策本部の危機管理訓練の機会をいただきました。演習者で構成する演習部（プレイヤー）と演習を運営・進行・評価等を行う指揮部（コントローラー）に分かれての演習であります。プレイヤーには、演習シナリオが一切知らされておらず、コントローラーが演じる各ダミー機関からの災害状況の付与で、プレイヤーが判断・決断し、災害対処するといった具合であります。実際の災害時に近い場面を設定（具体的な氾濫河川名・被害地域名）してあるので、大変緊迫感があり、災害対策本部の災害対応のあり方を検証するには、最適の演習でありました。午後2時から4時30分までの時間でありましたが、職員も本番さながらの真剣さで対応にあたり役割分担や災害の対処方法を確認いたしました。

私もこのロールプレイング方式による訓練を経験するのは初めてでありましたが、福島市職員をはじめ、流域自治体の災害対処能力の向上が図られ、また災害に対する危機管理能力のアップにも繋がり大変有意義であったと認識いたしました。ぜひ、他自治体におかれましても一度検証されればと思うわけでありませう。

最後になりますが、今回の三位一体改革ではそれぞれの立場での取り組み大変だったことと思慮されます。政府・与党は昨年11月26日、国と地方の税財政を見直す三位一体改革の全体像を決めました。これによりますと、廃止して税源移譲の対象とされた河川事業・砂防事業については、廃止対象から除外され、補助制度の廃止は行われないうこととされま



した。国民の生命・財産を守る治水事業の重要性と、国の役割が広くご理解いただけたものと思っております。

しかしながら、補助金などの改革をめぐる国と地方が今後も協議を継続するという事なので、引き続き、治水事業が一層進められるような基盤づくりに取り組んでいきたいと考えております。全水連関係各位の一層の結束を切望いたします。

#### 経歴

- |          |                        |       |
|----------|------------------------|-------|
| 平成13年12月 | 福島市長に就任                | 現在に至る |
| 現在       | 阿武隈川上流改修促進期成同盟会<br>会長  |       |
|          | 摺上川ダム建設促進協議会会長         |       |
|          | 東北直轄河川治水期成同盟会連合<br>会会長 |       |
|          | 東北直轄ダム事業促進連絡協議会<br>副会長 |       |
| 平成14年6月  | 全国治水期成同盟会連合会副会長に<br>就任 |       |

# 平成17年度全国治水大会 長崎大会

— 佐世保市「アルカスSASEBO」において、平成17年6月2日開催 —

## 平成17年度全国治水大会長崎大会実行委員会

はじめに、昨年の新潟県中越地震をはじめとする多くの災害において犠牲となられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害を受けられた方々に対しまして心からお見舞いを申し上げます。

長崎県におきましても、諫早大水害、長崎大水害、雲仙普賢岳噴火災害など、多くの災害に見舞われてきました。また、離島、半島で構成され、北海道に次ぐ海岸線を有する本県は、その地形から、水資源に恵まれておりません。県民の安全と豊かな生活のため、治水事業の推進は、本県の最重要課題として位置づけられております。

今年度の全国治水大会が、この時期、本県において開催されますことは、誠に意義深いことと存じます。

さて、会場となる佐世保市は、本県北部地域の中心都市として、平成14年、市制施行100周年を迎えました。

今年、指定50周年を迎える西海国立公園は、九十九島など豊かな自然に恵まれております。また、ハウステンボスは、水を育み、水に育まれる街として、人と自然の調和を育む環境づくりに努めております。

皆さまには、このハウステンボスを含め、大会翌

日の視察を予定いたしております。

### ■長崎市内コース■

長崎大水害関連箇所といたしまして、市内を流れる中島川の改修、上流のダム事業、長崎港にひろがる長崎水辺の森公園

### ■諫早市内コース■

諫早大水害時に大氾濫を起こした本明川の改修

### ■島原半島コース■

雲仙普賢岳噴火災害関連の砂防事業、雲仙岳災害記念館

視察当日の6月3日は、平成3年の大火砕流により犠牲となられた方々のご冥福をお祈りする「いのりの日」となっております。

また、講演を、テレビなどでおなじみの脚本家市川森一氏にお願いしております。

### ■特別講演■ 脚本家 市川 森一氏

先生は、1941年、長崎県諫早市のお生まれです。

現在は、日本放送作家協会理事長としてご活躍中です。

多数の皆さまにご来県いただきますよう、心からお待ち申し上げます。

## <全水連だより>

### 平成17年度 全水連行事予定

(平成17年1月6日現在)

全国治水期成同盟会連合会

月 日	(曜)	時 刻	行 事	会 場
4月27日	(水)	11:00	全水連春季理事会	麹町会館3F
6月2日	(木)	13:00	第57回全水連総会	長崎県佐世保市
6月2日	(木)	13:30	17年度全国治水大会	長崎県佐世保市
10月20日	(木)	11:00	全水連秋季理事会	麹町会館3F
11月22日	(火)	13:30	17年度促進全国大会	砂防会館別館

(注) 各地方治水大会の日程、会場等は、これから決定いたします。